

2012年秋季研究発表会 プログラム

大会初日 11/10(土)						
セッションNo	講演No	開始時間	終了時間	講演者	タイトル	発表要旨
開会挨拶など		13:00	13:05	開会挨拶など		
セッション1 座長 川上愛先生	講演1	13:05	13:30	○福島 亜理子(放送大),森本 雅子(国立精神・神経医療研究センター),八木 玲子(東京成徳短大),河合 徳枝(国際科学振興財団/早稲田大・研究院),本田 学(国立精神・神経医療研究センター),仁科 エミ(放送大/総合研究大学院大),大橋 カ(国際科学振興財団)	音楽再生音に含まれる超高周波成分の周波数帯域が脳活動に及ぼす影響について	人間の可聴域上限をこえる超高周波成分を豊富に含む音が、深部脳活性を高め心身を賦活し音をより快く知覚させる現象が見出されている。この効果を発現させる超高周波成分が具えるべき周波数帯域について脳波を指標として検討した結果を報告する。
	講演2	13:30	13:55	○橋本 翠,宮谷 真人(広島大院)	ERAN 惹起に必要な音楽的文脈形成における刺激提示頻度の効果	ハーモニー処理に関連したERPとしてERANが報告されているが、ERAN惹起における標準刺激と逸脱刺激の提示頻度と音楽的文脈形成との関連性は報告されていない。本研究では、標準刺激と逸脱刺激の提示頻度の違いが音楽的文脈形成にどのように影響を与えるのかについて検討を行った。
休憩1		13:55	14:05	休憩10分		
セッション2 座長 生駒忍先生	講演3	14:05	14:30	○アーサーズ 裕子,ティマーズ レネー(シェフィールド大)	増三和音と減三和音の知覚 —音楽的文脈による協和度の違い	和音の協和と不協和の知覚は、音響的な特徴とその和音の文化的条件づけによって決定される。本研究では、文化的条件づけの協和感への影響を調べるため、様々な音楽的文脈の増三和音と減三和音を用いて実験を行った。
	講演4	14:30	14:55	◎伊藤 範子,安達 真由美(北海道大院)	メロディの潜在記憶 —注意分割課題を用いた検討—	メロディの潜在記憶について、学習時に図形課題を同時に行う注意分割条件を設けて記憶の妨害を行い、それが1か月後の2つの潜在記憶課題成績に与える影響を検討した。その結果、間接再認課題を用いた場合において、学習段階での提示回数に対し有意なプライミング効果が見られ、1か月後もメロディが潜在記憶として保持されるという可能性が示唆された。
	講演5	14:55	15:20	○村尾 忠廣(帝塚山大)	日本旋法における主音の認知と判断—陰類ミ旋法変格(属音)終止か、変格シ旋法主音終止か(II)	東川の旋法理論の一つの大きな弱点は、旋法を決定する主音の判定を終止音に委ねていることである。しかし、「ちようちよう」として知られる「小さなハンス」にしても「ムシデン」(別れの歌)にしてもミで終わるもの、フリーギア旋法ではなく、明らかに主音はDの長旋法である。同様のことは、日本の伝統音楽においてもありえる。主音の認知判定がもっとも困難な例は、陰類のシ旋法とミ旋法における終止音のシを主音としてとらえるか、それとも属音終止ととらえるか、という場合である。松島つねは自ら作曲した「手まり歌」という曲の解説をしているが、そこでは、シで終わっているものの、主音はミであると述べている。しかし、他方でシを主音とした変格終止であるとも述べているのである。作曲者であっても主音がはっきりしない、というのだろうか。本研究では、この問題に関して仮説を提起、松島や自作の一部を改作して検証への手がかりとしたい。
休憩2		15:20	15:35	休憩15分		
セッション3 座長 亀川徹先生	講演6 招待講演	15:35	17:35	○福井 健策(弁護士/ニューヨーク州弁護士/日大藝術学部客員教授)	音楽研究における著作権処理について「ネット時代の著作権~研究・教育目的で、どこまでできるか?」	我々は、教育や研究活動をおこなう上で、音楽や映像、楽譜などを日常当たり前のように使用しています。しかしこれらのコンテンツのほとんどには著作権が存在し、公共の場における使用にあたっては許諾が必要となります。これまで学会という限られた場では許されて来た事も、ホームページへの掲載や、ネット配信といった使用方法が増えるに従って、われわれ使用する側に大きな意識の変化が求められています。本講演では、コンテンツに関する著作権のスペシャリストである、福井健策弁護士を迎えて、ネット時代における著作権の扱いについて、研究・教育目的での使用に焦点をあてて解説していただきます。
表彰式		17:35	17:45			
懇親会		18:00	20:00	*懇親会場:		

2012年秋季研究発表会 プログラム

大会2日目 11/11(日)						
セッションNo	講演No	開始時間	終了時間	講演者	タイトル	発表要旨
セッション3 座長 山崎晃男先生	講演7	9:05	9:30	○星-柴 玲子(東大院/理研 BSI/JST-ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト), 古川 聖(東京芸大), 岡ノ谷 一夫(東大院/理研 BSI/JST-ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト)	音楽階層構造の基盤となる終止構造認識の心理および生理学的検証	我々はこれまでに、機能と声の終止構造に終止度を導入した、和声構造を骨格とした音楽階層構造について提案してきた。この階層構造の基盤となる終止構造認識に関し、心理的および生理的に検証した結果を報告する。
	講演8	9:30	9:55	◎川上 愛(東京芸大院/理研 BSI), 古川 聖(東京芸大院), 岡ノ谷 一夫(東大院/理研 BSI/JST-ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト)	悲しい音楽の心地よさ	本研究では、音楽に関する二種類の感情(印象と喚起された情動)がどのような場合に異なるのか網羅的な検討を行った。その結果、印象としては不快と判断されるような悲しい音楽(短調曲)において、喚起された情動において不快な情動が減じられるとともに快の情動が喚起されており、両面的な感情状態にあったことが示唆された。
	講演9	9:55	10:20	○寺澤 洋子(筑波大/JST さきがけ), 星-柴 玲子(東大), 柴山 拓郎(東京電機大), 大村 英史(JST-ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト), 古川 聖(東京芸大), 牧野 昭二(筑波大), 岡ノ谷 一夫(東大)	音楽情動コミュニケーションにおける身体的様相	日常生活における音楽体験は、実験環境での音楽体験とは異なり、身振りや運動動作、視覚刺激などを伴い、かつ他者と共に体験され、強い音楽情動を伴う。本発表では、身体性と社会性をキーワードに、このような音楽情動体験のメカニズムを考察し、理論的モデルを提案する。
	講演10	10:20	10:45	◎石川 潤(新潟大), 高井 聡恵(山形県長井市立長井小), 森下 修次(新潟大)	和太鼓演奏における動作及び音響分析による比較	鼓童研修生及び鼓童現役演奏者に和太鼓に演奏してもらい、演奏動作と演奏音にあらわれる傾向や特徴を抽出した。また、それらを被験者に聴かせ聴取印象との関連性を調べた。その結果演奏動作と聴取印象に関係性があることが確認された。
休憩3		10:45	11:00	休憩15分		
セッション4 座長 安井希子先生	講演11	11:00	11:25	○松谷 晃宏(東工大・半導体 MEMS プロセス技術センター)	ヴァイオリン演奏における擦弦振動と共鳴振動の観察	ヴァイオリン演奏では、演奏する音と他の弦との共鳴は演奏された音色に影響を与える。今回は、D弦G音と8度の関係にあるG弦の開放音について、擦弦振動と共鳴振動の弦振動の同時観察と、擦弦部分と共鳴部分の周波数分析を行ったので報告する。
	講演12	11:25	11:50	○丸井 淳史, 亀川 徹(東京芸大)	聴能形成訓練における問題難易度推定のための基礎的検討	録音技師など音響に関わる専門家のための聴能形成訓練において、訓練進捗にしたがって徐々に難しくなる課題を設定することが効果的な訓練には肝要である。現状では教師が生徒のために適切と思われる難易度を設定していることが多いが、自習のためには問題難易度についての客観的指標の作成が求められる。本研究では問題難易度の推定を目標とし、生徒による問題難易度の主観評価と問題から得られる物理特性値との対応について検討を行った。
	講演13	11:50	12:15	○谷口 高士(大阪学院大)	音響技術者による音響操作と音の印象語の関係	16名の音響技術者に対して、音に関する複合的印象語や基本印象語を示して、それらの印象に近づけるための音響ミキシング操作についての具体的な記述を求めた。
	講演14	12:15	12:40	○亀川 徹, 丸井 淳史(東京芸大), 伊達 俊彦(パナソニック), 江夏 正晃(マリモレコース)	3D映像と高さ方向のサラウンドによる空間印象の相互作用	映像が3Dと2D、音声を2チャンネルステレオ、5チャンネルサラウンド、そして高さ方向を加えた7チャンネルサラウンドで再生した場合の空間印象の違いを試聴実験によって比較した。

*講演者左欄の◎は研究選奨受賞対象者を示す。